

(別添 10)

指定管理者による公の施設の管理運営状況

令和 5 (2023) 年度

施設名	栃木県土上平放牧場
施設所管課	農政部畜産振興課
指定管理者	酪農とちぎ農業協同組合 (法人番号1060005001318)
指定期間	平成31 (2019) 年 4 月 1 日～令和 6 (2024) 年 3 月31 日

1 施設の概要

施設所在地	塩谷郡塩谷町上寺島1637
施設の概要	① 敷地面積：175.1ha 草地面積：119.0ha ② 放牧可能頭数：250頭 ③ その他：管理棟 1、避難舎 3 棟、隔離舎 1 式、衛生施設 1 式、飲雑用水 1 式、隔障物 1 式、道路 1 式、その他附帯施設 1 式
業務内容	① 牧場の施設の維持管理に関する業務 ② 牧場利用の許可に関する業務 ③ 牧場の運営に関する業務 上記以外の指定管理者が牧場の管理上必要と認める業務のうち知事のみに権限を属するものを除く業務

2 収支の状況

令和 5 (2023) 年度

(千円)

収入			支出		
指定 管理 ※2	指定管理料	3,900	指 定 管 理 ※2	事業費	-
	利用料金収入	8,707		管理運営費	8,437
	その他収入※1	565		人件費	4,728
				その他支出※1	
	合計	13,172		合計	13,165
指定管理業務収支差額①					
自主事業			自主事業		
自主事業収支差額②					
収支差額 (①+②)					
備考 (※1 その他収入の主なものを記載)			備考 (※1 その他支出の主なものを記載)		

※2 指定管理業務に係わるもののみ計上する。

令和 4 (2022) 年度 (前年度)

(千円)

収入			支出		
指 定 管 理 ※2	指定管理料	3,900	指 定 管 理 ※2	事業費	-
	利用料金収入	9,174		管理運営費	10,014
	その他収入※1	1,579		人件費	4,476
				その他支出※1	-
	合計	14,653		合計	14,490
指定管理業務収支差額①					
自主事業			自主事業		
自主事業収支差額②					
収支差額 (①+②)					
備考 (※1 その他収入の主なものを記載)			備考 (※1 その他支出の主なものを記載)		

※2 指定管理業務に係わるもののみ計上する。

3 利用状況

施設名	項目	令和4（2022）年度 （前年度）	令和5（2023）年度
放牧施設	放牧期間	令和4（2022）年 5月10日～11月9日 （184日）	令和5（2023）年 5月11日～11月6日 （181日）
	放牧利用個体数	129頭	133頭
	延べ放牧頭数	23,522頭	22,326頭

4 サービス向上に向けた取組

- ・牧草地や施設の適正管理による育成牛の健全な育成
- ・預託牛の飲用水確保
- ・人工授精の実施による優良子牛の供給
- ・アブ対策

5 利用者意見への対応

利用者意見の把握方法	
・日常業務で随時 ・電話による受付	
主な利用者意見（苦情・要望）	対 応
・良好な草地維持をお願いしたい。 ・預託牛のために確実な飲用水の確保をお願いしたい。 ・預託牛の健全な発育をお願いしたい。 ・アブが多いため、対策をお願いしたい。	・定期的に刈払いを行い、適正な肥培管理により草地の増収に努めた。 ・随時、水源地の清掃・点検、及び老朽箇所における導水管の補修を実施し飲用水確保に努めた。 ・定期的に放牧牛の観察を行い、衛生検査の結果をもとに隔離等を行うことで、牛群の健康維持に努めた。また、牧柵の点検・破損箇所の修理等に努め、牛の脱柵等による事故を防いだ。 ・アブトラップを設置し、放牧牛への被害が減少した。
主な利用者意見（積極的評価）	
・発情に応じて、放牧場内で人工授精を実施してもらえる点が良い。 ・傾斜地で育成するので足腰がしっかりするため、戻ってから牛舎内でも牛の健康状態が良い。	

6 指定管理者による自己評価

成果のあった取組・積極的に取り組んだ事項・利用者満足度向上への取組
・水源地及び導水管点検を実施するとともに、牧柵の点検及び修繕、場内道路におけるU字溝清掃など、施設における適切な維持管理を実施した。
草地の維持管理
・肥培管理や刈払い（掃除刈りを含む）を適切に行うことで、草地の増収につながった。 ・冬季に堆肥を施用し、土壌改良や地力向上、放射性物質吸収抑制を図るとともに、春先の牧草生育を促進し、牧草地の有効活用が図られた。
今後改善・工夫したい事項
・引き続き草地の適正管理やアブ対策等を行うことで、利用者満足度の向上及び放牧頭数の確保に努め、健康な後継牛の育成と農家のコスト低減を図る。

7 所管課室による評価

項目	評価の内容	確認内容・所見等	評価
1. 住民の 平等利用の 確保	① 住民の平等利用が確保されたか。	・衛生検査等により放牧の可否を判断し、平等利用が確保された。	B
	② 使用許可に関する権限が適正に行使されたか。	・放牧が可能な牛は、牛所有者に対して適正に入牧許可を行った。	B
	③ 高齢者、障害者等に対する配慮はなされたか。また、平等利用が確保できない場合の対応は適切か。	・該当者には、極力補助を行った。	B
2. 施設の 効用の最大 限発揮	① 施設の設置目的に沿った業務実施がなされたか。	・本放牧場の設置目的である健全な乳用育成牛の放牧に取り組んだ。	B
	② 施設の利用促進、県民サービスの向上が図られたか。	・適正な草地管理及び放牧管理により、預託牛の健全な育成、農家の作業労力軽減に貢献した。	B
	③ 利用者満足度を把握し、満足度の向上が図られたか。	・利用者からの意見、要望等を常に聴取、反映させる体制とした。	B
	④ 利用者からの意見、苦情に対して適切な対応がなされたか。	・対応策を検討し、適切に実行した。	A
	⑤ 施設、設備、備品の維持管理や安全管理は適切になされたか。	・放牧場の管理に関する協定書に基づき、指定管理者としての適切な管理がなされた。	B
	⑥ 指定管理者の創意工夫により業務改善等がなされたか。	・牧草の生育促進、土壌改良・放射性Cs吸収抑制対策のため、収牧後の堆肥施用を行い、草地の維持管理がなされた。	B
3. 管理を 安定的に行 う物的人的 基礎	① 組織体制は適正か。	・指定管理に係る組織体制は、近隣の職員を配置する等、十分に整備されている。	B
	② 収支は適正でバランスがとれたものか。	・放牧頭数が計画を下回ったが、適切な管理等により、収支バランスを適正に保てた。	B
	③ 経費の縮減に取り組まれてきたか。	・各種エネルギー使用量の縮減に努めた。	B
	④ 人材育成は適切に実施されているか。	・作業を複数名で実施することにより、人材育成を図っている。	B
	⑤ 危機管理体制（事故、緊急時の対応）は確保されているか。	・緊急連絡網、対応マニュアルを作成し、随時更新が図られている。	B
	⑥ 県や関係機関との連携体制は確保されているか。	・電話やメール等で、速やかに対応できる体制が確保されている。	B
4. 個人情報 保護	① 個人情報の保護についての措置が計画どおり実施されているか。	・放牧場の管理に関する協定書に基づき、計画どおり実施されている。	B
	② 情報公開は適切になされているか。	・放牧場の管理に関する協定書に基づき、適切に行うこととされているが、開示請求はなかった。	B
5. その他	① 施設の特性にふさわしい自己評価がなされているか。	・牧場全体及び放牧業務に精通し、業務内容を把握して対応しており、おおむね実施されている。	B
	② 自主事業が計画どおりに実施されているか。	・授精適期の預託牛への人工授精を積極的に実施した。	A

	③ イベント等を実施している場合は、地域との連携が図られているか。	・実績なし	—
	④ 環境への配慮（騒音・光害対策、ごみ削減等）がなされているか。	・牛の搬入・搬出時等における車両の騒音発生防止等の対策を講じ、周囲への環境配慮に努めた。	B
	⑤ その他管理運営上の特記事項	・飲水施設の定期点検、水源施設の堆積物清掃等により断水を未然に防止した。	A
総合的な評価			
・草地における適切な肥培管理、牧柵及び給水施設の保守点検、牧場内管理道路の簡易補修等、施設の維持管理に努めている。 ・組合員を始め県内酪農家に対し積極的に放牧場のPRを行うなど、頭数確保に努力している。 ・農家ニーズの高い人工授精や草地維持管理のための堆肥施用などに取り組んでおり、自主事業や業務改善が十分になされている。 ・飼料価格が高騰しているなか、農家の生産費や労力の削減、預託牛の健康増進等にメリットがある公共牧場の役割はますます重要となっていることから、適正な施設の管理運営に期待したい。			

※「評価」欄には、以下の指標により判定した結果を記載すること。

- A：事業計画に対して優れた取組となっている。
- B：事業計画どおりの取組となっている。
- C：事業計画に対して劣る取組となっている。
- D：事業計画に対して著しく劣る取組となっている。